

強度行動障害支援部会 各位

事業の報告

岡山県相談支援専門員協会 平松 啓生

令和 5 年度に引き続き、令和 6 年度も岡山県相談支援専門員協会の主催事業として、「強度行動障害にも対応した相談支援専門研修」を行いました。(共催おかやま発達障害者支援センター、岡山市障害者基幹相談支援センター、倉敷地域基幹相談支援センター、津山地域障害者基幹相談支援センター)

研修の到達目標は「相談支援専門員として、支援の方策を提案できる(伝えられるようになる)」ことです。受講者は研修を通じて、強度行動障害のある方を支援する際に相談支援専門員に必要なことを学びました。

第 1 回 研修内容 令和 6 年 11 月 21 日(木)	
標準的支援(発達障害支援ベースに、冰山モデルや行動の機能分析、それらの根拠に基づく支援の方略等)に関する講義	
講義	(1) 行動障害の基礎知識 (2) 行動の背景のアセスメントのポイント など

第 2 回 研修内容 令和 7 年 2 月 13 日(木)	
受講者の担当する事例をもとにしたチーム支援(グループワーク)	
講義	事例をもとにしたケース会議の実施 ケース会議の招集、コンサルタントを含むチームでのケース会議の回し方の確認 など
演習	(1) 事例紹介 (2) 強みの共有 (3) 冰山モデル・ストラテジーシートの作成 (4) まとめ

研修にあたり、のべ 17 名の相談支援専門員が受講しています。うち 2 名の受講者から実際に関わっている事例を提供いただきました。事例は当該利用者が実際に利用している障害福祉サービスの事業所に協力をいただき基礎データを収集しました。障害福祉サービス事業所側に県研修(強度行動障害支援者養成研修)の修了者がいる場合、その方とのやり取りをしてもらうようにしています。

研修では障害特性の理解や環境とのミスマッチ、行動の機能的アセスメントを行う中で支援の方略

(岡山県 強度行動障害支援部会資料)

を検討するワークを行い、チームで支援を展開すること、支援のPDCAサイクルを回していく際のマネジメント等を学びました。

以下は令和7年2月13日開催分の受講者アンケートからの抜粋です。

質問この研修の学びをあなたの地域で展開していくために、あなたはどのような役割を担えるでしょうか？
・グループワークありの研修会 ・繰り返しの学びが必要だと思います。学びの場としての内容や地域に持ち帰りどう展開していったかなど、知る機会にもなればありがたいです。 ・距離のこともあり、各地域で開催できるといいなと思いました。

質問：この研修の学びをあなたの地域で展開していくために、どのような事が必要と思われますか？
・チーム作りを頑張ること ・冰山モデルや行動分析などのツール使用を提案する、一緒に考える。 ・協議会や法人で行う研修などで紹介し、地域の中で一緒に研修ができたと思います。

岡山県での養成研修では、現場の支援者を中心として多くの受講者がいますが、実際の現場に持ち帰り、手法を導入するにあたっては方針や方向性が正しいのかどうか迷う支援者も多くいます。相談支援専門員は日々の支援に直接かかわることがないことも研修の効果が出にくい一面といえます。繰り返しの学び、各地域に根差した実践にくわえ、それを支えるメンター的な役割を担う専門職が必要と考えられます。強度行動障害の支援における「標準的支援」を自立支援協議会などで周知していく上で、自立支援協議会（県協議会、各地域の協議会）の役割が有用であると考えられます。

強度行動障害への対応として、行動への介入にあたっては「その行動がなぜ生じているか」を当事者の視点で捉えておく必要があります。「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書（厚生労働省 R5.3.30）」でも触れられている「標準的支援」（発達障害支援ベースに、冰山モデルや行動の機能分析、それらの根拠に基づく支援の方略等）の普及がなされるよう、継続開催する予定です。